

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 土岐紅陵高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和8年5月25日(月) 13:30~15:30
- 3 開催場所 土岐紅陵高等学校総合学科棟2階会議室
開催にあたり、委員による演劇ワークショップ参観を実施した
- 4 参加者

会 長	土本 泰	至学館大学職員
委 員	伊藤 公一	美濃文山窯
	加藤 直美	土岐市立西部こども園 園長
	加藤 宏峰	土岐市立西陵中学校 校長
	木股 秀樹	土岐市市民活動課長
	玉木 貴代	本校PTA副会長
	長瀬 久美子	土岐市立下石小学校 校長
学 校 側		
	木澤 朗	校長
	清水 香織	教頭
	塩崎 勉	事務長
	金子 浩隆	教務部長
	坂崎 陽祐	生徒支援部長
	大宮 学	進路支援部長
	白川 功貴	活性化推進部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 本校における「働き方改革」の推進について

- ・取組みの目的
- ・取組み内容

意見1: 企業の取組みを見ると、朝礼を勤務時間内に行うことや、サービス残業をしない等変化が見られる。本校の取組みもよいことだ。とても重要だ。

意見2: ICTを活用して業務量を軽減することは、大事なことだ。(複数)

意見3: 留守番電話への切り替え時間はもっと早くして16時でもよいのではないかと。一般企業も留守番電話対応が早まっている印象がある。
⇒生徒の下校時間に合わせている。他校との連絡の都合もある。

意見4: 子育てや介護を抱えた教職員が、気持ちよく仕事ができる体制を整えていく必要がある。若い世代が「子育てしながら」「介護をしながら」働くイメージができる環境にしていくことが大切だ。

意見5: 仕事があり、電話が通じる時間に電話することが難しい。ちょっとしたことですぐに聞きたいことがある場合、電話が繋がらないのは残念だが、留守番電話対応や、命に係わる緊急の場合にはつながる手段があるのは安心だ。

意見6: 昼にショートホームルームがあるとのことだが、欠席した生徒の把握はどうするか。
⇒朝は登校確認をし、連絡なく欠席している場合はすぐに教職員から保護者に電話連絡をしている。

(2) 部活動の新入部員募集停止について

- ・生徒会部活動・同好会活動規定説明
- ・現在の部登録の状況説明
- ・令和9年度の新入部員募集停止についての流れの説明

意見1：来年度の1年次生で募集停止になった部活動をやりたいという場合はどうするか。

⇒能力開花部でサポートする。

意見2：来年度の新入部員募集停止や能力開花部の周知はどうするか。

⇒中学校訪問で持参するチラシや、一日体験入学での説明で周知する。

意見3：部活動が自由参加であったり、アルバイトに重心を置く生徒がいたりする状況で、学校存続のためには新入部員募集停止はやむを得ない。

意見4：部活動が少ないことがデメリットではなく「少ないからこそ」というよい面をアピールできるとよい。また、新しい部活動を作ろうという機運が形になるとよい。

意見5：新入部員募集停止になった部活動でも、やりたい生徒がいれば継続してやっていける体制があるのはよい。

意見6：最近の生徒は習い事も含め、忙しい。一人で頑張る生徒を応援する本校の姿勢を大切にしてほしい。

意見7：中学校でも部活動が全入制ではない。部活動にない競技でも、やりたい生徒がいるのであればその都度体制を整えることが大切だ。募集停止についてはやむを得ない。

(3) 学校運営の基本方針等について

- ・「総合学科」の特色説明
- ・校訓、校章の紹介
- ・教育目標、スクールミッション、スクールポリシー、基本方針、運営の重点の説明

(4) 学校概要説明について

- ・職員構成、運営機構、生徒構成
- ・教育課程・日課・年間行事計画
- ・分掌説明（教務部、生徒支援部、進路支援部、活性化推進部）

意見1：本校には様々な系列があり、個の興味関心に応じて学べる環境がある。最近「多様性の包摂」とよく言われるが、本校はこれからの時代に必要な学校だ。

意見2：「やりたいことが見つかるかも」と思って選んだ本校で、様々な選択科目を選んで学び、社会に役に立つ「自分らしさ」を見つけられるとよい。

意見3：「選べるものが選べる」学校という強みが、教員の努力によって強化されている。

意見4：カリキュラムが変わったことでどういう変化があったか、今後の分析結果を聞きたい。

意見5：昔の「正解を言おうとする」学びではなく、「選択して」学ぶことが大事である。この総合学科の特性を今後も生かしてほしい。

意見6：本校ではカリキュラムもよく考えられている。演劇ワークショップ等、コミュニケーション力を付ける取組みや、早い時期からの進路支援もよい。本校の努力が定員の充足へとつながっており、中学生の評価が高いことがうかがえる。

意見7：自分で調べて発表する教育の積み重ねで、意見やアイデアを言えるようになるのは、これからの時代に大切なことだ。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会は、7人の委員全員出席で開催した。会長選出に続いて演劇ワークショップを見学した後に、会長を議長として議事を進行した。今年度の学校運営の基本方針等に加え、本校の「働き方改革」の推進、部活動の新入部員募集停止について、過半数の委員より承認が得られた。多くの視点から意見を得たことを踏まえ、今後の学校運営に生かしたい。